

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 21 年 12 月 24 日（木）10：00～11：55
- 場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室
- 出席者 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、金澤議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官
- 議事概要

議題 1. 科学技術振興調整費による実施課題の中間・事後評価

<文部科学省説明>

- （奥村議員） ◇ 事後評価で A 評価とされた中には、モデル性があり、他の大学でも使えそうなものがあるが、その成果を文科省として政策的に他の大学に波及させることは行わないのか。
- （文部科学省） ◇ シンポジウム等でこういう例があると示すことで他の大学において参考にさせていただきたい。
- （白石議員） ◇ 事後評価で C 評価とされたものについては、終了後の評価であり、このプログラムに対して直接改善要求などは出さないと考えるが、この結果はどのように使われるのか。
- （文部科学省） ◇ C 評価がつくということは、大学にとってはインパクトがあることなので、大学側が真摯に問題点を認識するという事だと理解している。
- （金澤議員） ◇ 評価委員の選び方に関して、最初から、特定の分野に反対などのバイアスを持って見ている人が選ばれることがある。これからいろいろな面で評価の仕方が成長していかなければならない。
- （文部科学省） ◇ 利害関係者は評価の対象にしないということを行っているが、もともと特定の分野に反対の意見の人を外すことは、事前に思想信条の調査をするわけにはいかないので難しい。
- （金澤議員） ◇ 調べれば分かることである。
- （文部科学省） ◇ 審査委員には、自分の分野あるいは自分の考えから一步後ろに下がって、全日本的観点から審議いただきたいとお願いしているので、事務局レベルで特定の人を排除するのは実際的には難しい。
- （本庶議員） ◇ そこがファンディングエージェンシーの非常に重要な役目である。レフェリーのライブラリーを作り、そのレフェリーがどのような評価をして、問題がなかったかどうかというレフェリー自身のチェックも行うべきである。
- （津村政務官） ◇ 政権交代後、どう選ばれた人たちがどういう議論を経てどういう結果を出したかということのを可視化し、記録を残していこうという取組を行っているので、来年度以降の実施に当たってはそういう視点で行っていただきたい。国民の目線でちゃんとチェックしているかどうかという信頼性が問われるので、審査委員の人選、議論の経過も含めてきちんと説明するよう工夫いただきたい。

議題 2. 今後の資源配分方針の在り方について

<須藤参事官説明>

- (津村政務官) ◇ 優先度判定の議論の際、単発で毎年優先度判定を行っても、それでは次の年以降の概算要求に生きてこないのので、2年3年先まで見据えた優先度判定やプライオリティ付けを行うという話があったが、それとうまくハーモナイズできるのではないか。
- (相澤議員) ◇ 現在策定されている成長戦略、また、もう一段上の全体国家戦略というものが出てくるとすれば、それらとのフレームワークをそろえて、科学技術関係については総合科学技術会議が中心となって具体的な戦略を策定していくというマッチングも重要ではないか。
- (奥村議員) ◇ この資料には作業のこゝろしか書いていないので、ここを変えることによって今までと何が変わるのかということをもう一枚資料として用意すべきである。
また、現在、政府の政策課題対応型のテーマは1500件あるが、全体の戦略性が見えていないので、この資源配分方針の改善においては、政府としての1つの方向性を作るといふ観点をもう少し出してほしい。
- (相澤議員) ◇ 科学技術関係の予算というものを、省を超えて大枠で編成出来るかどうかという非常に大きな問題が含まれている。
- (津村政務官) ◇ 何をするのかを対外的に明確にすることは重要。これを実現すると結果として予算が減るところ、作業量が増えるところなどからは難色を示す可能性もあり、覚悟を決めて取り組む必要がある。

その後、以下の議題について、プレス非公開で議論が行われた。

- ・最先端研究開発支援プログラムについて（研究計画の精査を行う専門家の人選及びその氏名等の公開・非公開について検討）
- ・科学技術振興調整費の配分の基本的考え方について（平成 22 年度の科学技術振興調整費の新規プログラム及び既存プログラムの運用の改善のポイントについて事前検討）

(以 上)